令和４年度「西脇知事と行き活きトーク」開催実績

回	開催日	場所	テーマ	ご意見等		京都府の対応（施策化・検討状況）
1	令和4年5月22日	洛西浄化センター呑龍ポンプ場	治水からの安心と街づくり	参加者	・水害の多い地域だったが、呑龍トンネル供用開始後、浸水被害が激減した。その効果を住民として肌で感じている。 ・水防団や自治会など地域活動の担い手の高齢化が深刻。若い人たちが地域活動に参加することに魅力を感じてくれるような方法を模索したい。 ・日ごろのあいさつや行事参加で人と人とのつながりを作ることが、ひいては防災や防犯につながる。 ・井戸端会議的なコミュニティを作り、自宅周辺の災害危険度を学ぶなど防災についてさまざまテーマで話し合う取り組みも大切。	・「いろは呑龍トンネル」について、令和４年３月に南幹線・呑龍ポンプ場の供用を開始しており、乙訓地域の治水安全度は大きく向上した。引き続き、調節池などの整備を進めてまいりたい。 令和５年度当初予算（令和４年度２月補正含む） 総合的な治水対策（13,360,779千円）（継） ・河川改修 ・貯留施設整備（いろは呑龍トンネル、廻り池の整備など） ・災害に備える環境整備 ・防犯・防災をはじめとした府民の安心・安全な暮らしのため、地域活動を支える住民の高齢化や担い手不足などの課題解決に向けた取組と地域で様々な活動を行う多様な主体との交流による連携・協働の創出を地域交響プロジェクトにより引き続き支援してまいりたい。 令和５年度当初予算（令和４年度２月補正予算含む） 地域交響プロジェクト推進費（281,833千円）（継） ・災害発生のおそれが高まった時に自主的に声を掛け合って避難する共助体制をつくるため、地域住民が話し合いながら行う「水害等避難行動タイムライン」の作成に対する支援を引き続き実施してまいりたい。 ・地域防災のリーダーとなる防災士を養成するとともに、市町村と連携して防災士の活躍を促進することで、地域住民の自発的な避難行動の促進や地域コミュニティの共助意識の向上を図ってまいりたい。 令和５年度当初予算（令和４年度２月補正予算含む） 防災士養成事業費（2,900千円）（新） ・防災士資格の取得に必要となる研修の実施
				知事	治水は、生命と財産を守る上で重要であると同時に、企業の立地や人の転入を促し、まちづくりに直結する。安心・安全を確保しながら、コロナで制約された人と人とのつながりを取り戻し、「あたたかい京都づくり」を進めていく。	
2	令和4年6月26日	島津アリーナ京都	障害者スポーツの意義	参加者	・コロナ禍では、以前はチームで共有していたラケットを各人専用にしたり、審判の指示に電子ホイッスルを導入するなど、工夫して練習を続けてきた。 ・京都は全国で唯一、全国障害者スポーツ大会に毎回全員が初出場というルールで選手を派遣し、競技者すべてに参加の門戸が開かれ、誰もが出場を目標に取り組むことができる。 ・練習会場の確保や大会参加時等の移動手段の確保などの課題がある。 ・大会が盛り上がることで競技人口が増え、地域の練習会場が確保されるなど障害者がスポーツに親しむ環境づくりを進めたい。 ・障害があってもみんなで楽しめるスポーツは、すごくいいと思う。 ・体を動かし、仲間とコミュニケーションできることを楽しんでいる。	継続 令和５年度当初予算（障害者文化・スポーツ振興費（障害者スポーツ振興事業）で43，307千円計上
				知事	・実際に皆さんとプレーさせていただき、改めて障害者スポーツが障害のある方にとっての生きがいづくりや健康づくりの上で非常に重要な取り組みだと感じた。 ・競技人口の減少という悩みも伺ったので、地域での裾野が広がるよう、これからも支援していきたい。	
3	令和4年6月26日	龍安寺参道商店街	地域や大学生を巻き込んだ商店街の活性化	参加者	・商店街の祭りを、和太鼓など学生たちのパフォーマンスを披露する場とし、若者を含む人の流れを呼び込みたい ・今後10年先20年先もこの商店街の居心地の良さを守るため、若い世代への情報発信をしていきたい ・子どもからお年寄りまで誰もが立ち寄って話せる交流拠点を運営している。今後は後継者を育てていきたい ・商店街として存続するのが、コミュニティの責務だと考える。身近にある買い物できる場所、おしゃべりできる場所を守るために、「こうすればできる」ということを後世に残していきたい。	令和５年度当初予算（新しい商店街づくり総合支援事業「継」）で88,500千円を計上。 商店街の多機能化や多様な人材の集積、及びネットワークの拡大を推進する取組を支援する事業として、「地域課題解決コミュニティ活性化事業」「商店街に関わる人材育成交流促進事業」を令和３年度から継続して実施するもの。
				知事	商店街が商売の場所だけでなく、人と人とが交流し、情報を共有しあう地域コミュニティの核となるように支援していく。学生さんも卒業してからも商店街の活動に顔を出してほしいし、学生の皆さんとのコラボによる商店街の”持続可能”な取り組みが広がるよう期待している。	
4	令和4年7月23日	横田商店	女性視点による農産物の魅力発信について	参加者	・「京都中丹いちおし商品」を通じて、府中北部にこれほど魅力のある地域があるんだという「驚き」をアピールしていきたい。 ・対外的PRの一方、地元の人をターゲットに、中丹の生産者の頑張りや商品の良さを知ってもらうことも大切にしたい。	【販売促進】中丹女性伝道師等と連携して、地域の魅力ある食材を活用した加工食品「京都中丹いちおし商品」として地域内外へ販売を支援するとともに、新たな商品開発への支援も実施する。 ・令和5年度当初予算：中丹「食の魅力」発掘・発信事業（継）5,000千円計上
				知事	中丹地域は農林水産業の潜在力が非常に高い地域。その魅力を自分たちで再発見して発信する取り組みが、生産者のやる気につながり、地域の産業全体の活力にもつながる。	

回	開催日	場所	テーマ	ご意見等		京都府の対応（施策化・検討状況）
5	令和4年7月23日	府立農業大学校	担い手確保の取り組みについて	参加者	・就農してからも、農地を借りるにも手続きが必要で、最初は分からずに苦労した。そうした法律上の手続きや地元調整といったことも就農してからも苦労した。 ・高校時代から将来は農業をやりたいと決めていた。農業に必要な知識や技術を学べて、農大に来て本当に良かった。 ・将来は農家派遣実習でお世話になった農家さんに就農予定。その農家さんのもとで伝統野菜を学んでいきたい。	【就農相談窓口及び農地貸付】 新規就農者のワンストップ相談窓口として「農林水産業ジョブカフェ」を設け、必要に応じて関係機関につなぐなどしている。また京都府農地中間管理機構に、「現地推進役」を地域毎に配置し、農地の貸し付けを考えている出し手や新規参入を検討している担い手の相談窓口として、担い手と地域をつなぎ、農地の有効利用を促進している。 ・令和5年度当初予算　京都農人材育成強化事業（人材確保事業）（継）　9,486千円 ・令和5年度当初予算　農地集積規模拡大支援事業（うち農地中間管理事業）（継）　98,949千円 【農大による農人材育成】 ・農業大学校では、将来の就農に向け、キャリア形成特別講座の「就農支援制度」において就農する際に活用できる資金や事業についての講義を行っている。しかし、農業法人に就職してから独立自営する方もいることから、卒業後は、農業改良普及センターと連携して卒業生の状況把握に努め、関係機関と連携し、フォローする体制を整えている。 ・農学科のカリキュラムは、2年間の座学で基礎的な知識を習得し、2年生の実践プロジェクトでは、将来の経営をシミュレートして計画・生産・販売を行うことで栽培と経営技術も学べるよう工夫している。就農後に役立つ資格を取得するための授業も実施しており、即戦力となる担い手の育成に努めている。 ・非農家出身の学生が多いため、1年生の農家派遣実習で経営者の考え方や農大では学べない高度な技術に触れることができ、大いに刺激を受けている。農業法人への就職を考える学生は体験実習を通じて法人とのマッチングを行うことでスムーズな就職に繋げることができている。
				知事	新型コロナや原油高をはじめとする激動する社会情勢、SNSやAIの進化など、農業を取り巻く環境が変わりつつある中、ぜひ若い力であたらしい技術を取り入れてほしい。農大を中心として地域の方とのつながりも生まれれるので、これは卒業後も生かしてほしい。新しい取り組みに挑戦する若い農業者の皆さんを我々もさまざまな形で支援していく。	
6	令和4年7月31日	丹後地域地場産業振興センターアミティ丹後	丹後の魅力的な産業を未来につなぐ　～若者が夢を持って働ける丹後へ～	参加者	①丹後は機械金属業の振興のために、人手不足に対応する若者への魅力発信が必要。また、移住者に対しても地場産業の現場や、丹後での暮らし方などを観光の視点で捉えた情報発信が必要。さらに、丹後でチャレンジする若者を応援することが必要 ②和装素材の製造で日本文化を支えると同時に、丹後ちりめんだけでなく多様な織物が集積する懐の深い産地や若い人につなぐには「稼げる産地」になれるよう新分野への挑戦や海外展開を進める必要 ③府内随一の果物産地として多種多様な品目を生産し、近年は海外への輸出も増えており、高齢化により不足する担い手の確保や新規参入の促進、高齢化で離農する人と就農希望者をマッチングを進めることが必要。 また、丹後の魚の価値を高めるため、漁業者や消費者までの関係者が連携して品質管理に取り組むことが必要。 ④阿蘇海の環境改善の取組を進めるとともに、日本海側の海岸漂着ゴミの問題などエコツーリズムの視点で若者を関係人口に取り込む施策が必要	意見については、丹後地域振興計画に記載するとともに、令和5年度の丹後地域振興費などで予算化している。 ① 【丹後のものづくり振興事業　計上3,900千円】の一部（継続・一部新規） 【丹後への若者定着促進事業　計上　3,700千円　】の一部（（新規） 【丹後への移住促進事業　計上1,000千円】の一部(継続・一部新規) ■【北部産業活性化推進事業　計上104,012千円】の一部(継続) ■【丹後・知恵のものづくりパーク機能強化事業　計上6,798千円】の一部(継続) ② 【丹後のものづくり振興事業　計上3,900千円】の一部（継続・一部新規） 【丹後への若者定着促進事業　計上　3,700千円　】の一部（新規） ■【次世代職人育成事業　計上56,844千円】の一部(継続) ■【伝統産業産地再構築事業　計上26,672千円】の一部(継続) ③ 【明日の丹後フルーツ産地強化事業　計上1,500千円　】の一部(継続) ■【未来へ羽ばたく京都の漁業を育てる事業　計上　15,920千円　】の一部 ④ 【丹後の美しい海づくり事業　　計上1,300千円】の一部(継続) ■は、本庁予算
				知事	・丹後はまさにものづくりの地域。今回、産業をテーマに選んだのは、生活するために稼ぐことが基本であるから。人口減少の中、人材確保のためには、丹後には一度出た人に戻ってきてもらわなければならない。 ・多彩な側面を持つ丹後のトータルな魅力に我々自身が気付き、発信することで人を呼び込み、産業振興につなげる。そんな好循環を生み出していけるよう、府としても取り組んでいく。	

回	開催日	場所	テーマ	ご意見等		京都府の対応（施策化・検討状況）
7	令和4年7月31日	網野保健センター、丹後王国食のみやこ	食文化 ～文化庁京都移転特別番組 “チェックtheカルチャー”～	参加者	・丹後は、郷土料理の「丹後ばらずし」をはじめ、食べ物が美味しい地域だということを広めていきたい。 ・「丹後ばらずし」は他所にはない地元の味。各家庭の味を大事にしながら、次の世代へと引き継いでいきたい。 ・文化庁移転を契機に、長い歴史のある京都の文化がもっと広がると嬉しい。 ・文化庁移転を契機に、観光をはじめ様々な分野で京都が盛り上がることを期待している。	文化庁移転を契機に、オール京都で立ち上げたプラットフォームと文化庁が連携し、地域活性化や観光、産業等様々な分野において文化の力を活かした様々な取組を実施します。 〇「文化の都・京都」プロジェクト連携事業費（184,000千円）「新」 文化庁の京都移転を契機とした新たな文化施策の展開に向けて、京都中を文化で彩る取組を実施します。 （令和5年秋頃） 音楽イベント、ステージパフォーマンス等を集中的に実施 （令和6年初春頃） 和食の魅力、京都の食文化の魅力を体感等できる取組を実施 〇文化芸術発信強化事業費（85,000千円）「継」 府民参加型の取組を通じ、文化体験機会の創出や次世代育成を図るとともに、京都から様々な文化を発信します。 ・京都 Music Festival 府民参加型の音楽祭 ・京都伝統文化の夢舞台 府内各地域の小学生等による伝統文化・伝統芸能の発表ステージ
8	令和4年8月6日	綾部工業団地交流プラザ	若者の夢が実現できる地域を目指して～暮らす　働く　夢実現～	参加者	・一世帯あたりの子どもの数が全国的に見ても多く、家族ぐるみの付き合いもたくさんある。 ・特別な目的があって綾部に来る、というわけではない。普通に勤める人でも、田舎暮らしができることを伝えていきたい。 ・地元から離れて身に付けた知識や技術が、Uターンで戻ってからでも生かせるチャンスがあることに魅力を感じる。 ・将来、子どもたちにとって一番良いタイミングでこの綾部に戻ってもらえたらうれしい。そのためには魅力的な就職先が必要になる。仕事や家庭など「暮らし」全体を守っていきたい。 ・舞鶴の良さをもっとアピールして、都会からUターンが増えたり、地元の人もこの地域に住んで良かったと感じられる工夫が必要。 ・子育て中のお母さんでも希望に合わせた時間で働けるチーム（team.m）を創った。急な予定が入ったお母さんがいても、他のメンバーがフォローできる仕組みがうまく機能しているので、企業でも採用されると面白いと感じている。 ・子育てしながら、介護しながら働ける柔軟な働き方を整えて欲しい。	【子育て環境】「中丹子育て未来づくり100人会議」（令和2年2月設立）の枠組みで、子育て支援者向けの研修会、子育て環境日本一に向けた職場づくり宣言企業の取組企業の拡大、子育てに関する地域情報の発信等に取り組む。 加えて、同会議のネットワークを拡大し、地域課題の共有や対応策検討等のための全体会議を開催 ・令和5年度当初予算：「中丹子育て未来づくり100人会議」事業（継）4,000千円計上 【地元定着】地元企業の高等学校への出前講座や企業現場見学会等による取組とともに、事業アイデアを募り、提案団体等が事業実施するUIターン等の取組により若者の地元定着促進を図る。 ・令和5年度当初予算：若者地域定着促進事業（一部新規）2,000千円計上 ・令和5年度当初予算：公募型UIターン等促進プロジェクト事業（新）1,500千円計上
				知事	・女性や若者にとっても学び直しの意味が非常に強くなっている。学び直しをふるさとへのUターンと絡めることも一つの方策ではないか。 ・地元とのつながりを持ち続けることが、故郷にとどまる人、戻ってくる人を増やすカギになると感じた。人生の節目にキャリアチェンジでふるさとを選択してもらえるよう、中丹地域の魅力向上に皆さんと共に取り組んでいく。	
9	令和4年8月7日	平等院表参道、茶づな	茶文化 ～文化庁京都移転特別番組 “チェックtheカルチャー”～	参加者	・20年前から茶問屋が半減しているなど、後継者が不足しており、我々の製茶技術を伝えていくのが困難になっている。やはりお茶に従事してくれる方を増やしていかないといけない。 ・宇治茶には、先代から引き継がれた「手摘みの文化」があるが、摘み子不足が深刻になっている。宇治茶の新規就農者にとって摘み子を確保することが困難になっており、就農に当たりハードルが高くなっていることが課題。	【技術伝承】 次世代の宇治茶の担い手育成のため、茶農家や茶問屋の子弟を、茶業研究所で研修生として受け入れ、茶の栽培管理から製造・仕上げに至るまで、1年間の実技と講義を実施。 【摘み子確保】 地域内からの摘み子確保に向けては、地元自治体による募集チラシの配布が行われており、府では、地域外からの確保につながるよう、ボランティアツーリズムや体験型観光などにより、門戸を広げていきたい。 【生産振興】 高品質化のための優良品種への新改植や被覆棚導入、省力化のための共同製茶機械や乗用型摘採機などの生産基盤の整備支援を実施。特に手摘み茶生産者が、新改植や被覆棚導入に取り組めるよう、事業要件の下限面積を緩和している。 ・茶業振興対策事業費（継） R5当初予算で40,086千円計上 【需要拡大】 新規需要開拓のための瓶入り玉露「玉兎」やプレミアム認証宇治茶などの新たな提案や、ブランド価値向上につながる世界文化遺産登録に向けた取組を実施。 ・宇治茶ブランド普及拡大事業費（継） R5当初予算で4,200千円計上 ・宇治茶世界文化遺産登録推進戦略事業費(継）R5当初予算で7,000千円計上

回	開催日	場所	テーマ	ご意見等		京都府の対応（施策化・検討状況）
10	令和4年8月7日	和東町社会福祉センター	豊かな自然環境を活かした相楽東部の未来づくり	参加者	・若い人が少なくなる中で伝統を続けていくには、地域でつながりを持つことが大事。 ・最近、ボルダリングの新エリアがオープンになり、上級者の方に1泊してもらえるようになった。初心者の方に滞在してもらうため、お茶の体験などを組み込んだ観光プランが用意できれば。 ・笠置には関西屈指のボルダリングエリアをはじめ、釣りやキャンプなどを楽しめる自然環境も揃っており、高いポテンシャルがある。 ・茶畑のすぐ近くに民家がある特徴的な景観を維持していくためには、やはり人口が必要。和束町に住みたい人と空き家とのマッチングができれば、移住が進むのではと考えている。 ・「大阪・京都の近くで、これほど美しい景色はないのでは」と訪れた皆さんがおっしゃるように、アクセスのしやすさには可能性を感じる。 ・かつて生産地であった地域にも、今では「和束茶カフェ」などお店がたくさんできている。新しい取組にもチャレンジしながら、「宇治茶」ブランドをより強くしていきたい。 ・宇治茶ブランドを支える仕組みの中で茶農家をやれていることが、日本の原風景的な景観を維持できている大きな理由の一つと思っている。	山城地域振興計画の策定にあたり実施した懇話会において、委員へ情報提供した。
				知事	・景観をはじめ、風土や人柄など地域の魅力というのは、そこにずっと暮らしてきた方々の努力の積み重ねによるもの。そのトータルな地域の魅力を維持し、発展させるためには情報発信が重要。 ・相楽東部の豊かな地域資源を未来につなげるために、地域と行政とが一緒になってまちづくりを進めていく。	
11	令和4年8月20日	京丹波町役場	京都丹波の魅力を活かして夢実現	参加者	・プレッシャーを感じて子育てされている方が多い中、ここは受け入れてくれる安心感がある。この雰囲気を大切に、子どもたちが将来戻ってきたい「面白い」地域にしたい。 ・こども園の野外活動フィールドを整えたり、園や「わの会」の活動を発信している。子どもたちと地域の方、子育て世代や地域の人同士のつながりが活動を通じて生まれてきている。 ・キッチンカーであちこちに出向いて、その地域の野菜やジビエを使って「こんなことができる！」ということを広めたり、人と交流する機会をつくりたい。 ・地域の食材を生かした飲食業を営んでおり、先々は、食を通じて子どもたちが生きる力を身につけたり、地域の方と食や自然を通じた助け合いネットワークをつくりたいと考えている。 ・人間が手を入れた山は手入れをしなければ維持できないことや山の仕事について、森林環境教育や野外学習を通じて伝えていきたい。 ・有機給食プロジェクトや、「わの会」さんなどいろんな組織と一緒に子どもたちを支援する取組を広げたい。 ・脱サラして、有機農業を実践しており、農家人口が減っている中で新たな販路も開拓しながら、後に続く人を増やしたいと思っている。 ・子育て世代が帰ってきたくなるように、自身の活動を通じて田舎の仕事やその魅力を発信していきたい。	【山の仕事、田舎の仕事の発信、野菜やジビエなどの魅力を広めたい】 都市近郊でありながら良質な食や豊かな自然環境がある南丹地域の魅力の発信強化、交流を入口とした移住促進 ・京都丹波ブランド強化・発信事業（継）　4,720千円 ・京都丹波ファン獲得事業（継）　3,275千円 ・広域観光推進事業（継）　2,575千円 ・京都丹波サイクルツーリズム推進事業（継）　1,750千円 ・京都丹波関係人口創出・移住促進事業（継）　4,600千円 【農家人口減少で後に続く人を増やしたい】 京都丹波の産業や食を支える担い手づくりに向け、農業経営体の経営安定や栽培技術の向上を支援 ・京都丹波「食」の担い手育成事業（継）　700千円 ・「丹波くり」振興未来創造事業（継）　1,200千円 【子どもたちが戻ってきたい地域】 地域の子どもたちが、京都スタジアムや自然環境、地域企業等の京都丹波をフィールドとしたSDGs体験型環境学習や、木育、森林環境教育、防災教室等を通じて、地域の資源や自然環境についての理解、郷土愛の醸成を促進 ・SDGs体験型学習等推進事業（継）　500千円 【受け入れてくれる安心感】 地域全体で子どもを育てる「子育て文化」の醸成を図り、子育てしやすい職場づくりに取り組む地域企業の支援や情報発信など「職場づくり」「まちづくり」「風土づくり」の取組を推進 ・京都丹波子育て文化創造事業（継）　2,600千円
				知事	・農業でも林業でも、持続可能で、かつ後継者を生むためには、収益を上げることが必要。収益を上げている方は結構いらっしゃるので、それをどう後継者につなげていくのかが重要。 ・食は、あらゆる生活の基本。「食育」について、より進めていかなきゃいけない。 ・府としても、皆さんの活動や南丹地域の魅力などを守り維持できるよう支援していく。	
12	令和4年8月20日	丹波自然運動公園	スポーツ文化 ～文化庁京都移転特別番組 “チェックtheカルチャー”～	参加者	・技術だけでなく人間性や社会性も磨けるのがスポーツの魅力。小さい子どもたちがスポーツできる環境やいろんな種類のスポーツに触れる機会をつくってもらえると、スポーツを続ける人が増えて、スポーツが地域に根付いていくのではないか。 ・スポーツが地域に根付いていくには、各地域での施設の充実や指導者の育成も重要。地域ぐるみで大会を実施したり、地域でのサポート体制が整えば、地域スポーツとして定着していくのではないか。 ・団体競技では、親の協力が必要になるので、競技経験者の力を借りるなど親の負担軽減を図ることが地域スポーツの振興には重要になると思う。	令和5年度当初予算において、以下の事業が予算化（含む）。 〇京のスポーツ・スタジアム夢づくり事業費（10,000千円）「継」 子どもたちがスポーツを通じて夢や希望を持てるよう、府内プロスポーツチームと連携したスポーツ体験教室や、様々な競技のトップアスリートとの交流等を促進することで、スポーツの裾野拡大となる取組を展開。 〇地域スポーツ医・科学サポート体制構築事業費（15,000千円）「新」 京都府トレーニングセンターが実施するスポーツ医・科学サポートについて、関係機関と連携・協働し、支援対象者の更なる拡大及び機能強化を図る。

回	開催日	場所	テーマ	ご意見等		京都府の対応（施策化・検討状況）
13	令和4年9月17日	パルスプラザ　稲盛ホール	未来を担う子どもたちをあたたかく育む京都づくり	参加者	・働く人の気持ちになり、その都合に合わせた雇用を方針とすることが大事 ・「子育てつぶやき川柳コンテスト」を主催している。子育てのリアルを社会に伝えることで、子育てにやさしい京都づくりにつながれば。 ・意欲や関心のあるシニアの方に「子育て支援」の裾野を広げていく。 ・コロナ禍になり、休まざるを得ない社員をみんなでカバーするが、規模の小さい企業では難しい。中小企業に向けた支援制度があれば。 ・イギリスは多様な働き方を労働者の権利として制度化し、少子化にストップをかけた。 ・イギリスでは施策や制度が充実し、赤ちゃんや子どもは社会全体が育てるという意識があり、どうしたら子どもたちを泣かせなくて済むのかを考えて行動している。	【子育て環境日本一の推進】 「社会で子どもを育てる」ための仕組みづくりなどを検討し、子育てに関する総合的な戦略となるよう子育て環境日本一推進戦略を改定するとともに、子育て環境日本一推進条例（仮称）の制定を検討する。 ・京都府子育て環境日本一推進戦略の改定（令和5年秋頃を） ・京都府子育て環境日本一推進条例（仮称）の制定（令和6年4月1日施行） 【子育てにやさし風土づくり】 子育て世代をあたたかく見守るだけでなく、府民や商店街、市町村等が子育てを我が事として具体的なアクションをおこすための気運醸成を図る。 ・令和5年度当初予算（子育てにやさしい風土づくり推進事業費（一部新））で36,600千円計上 【安心して子育てできる雇用環境等の創出】 育児休業の取得促進や時間単位の年休制度の導入など、社会の変化を捉えて、子育てなど日々の生活と仕事とを両立できるよう助け合う、子育てにやさしい職場環境づくりをさらに推進する。 ・令和5年度当初予算（子育てにやさしい職場づくり事業費（一部新））で 138,928千円計上
				知事	・「子育て環境日本一」の次の到達点は、まさに社会全体で子育てをしている状態になること。地域で、職場で、みんなが子どもを見守っているという環境があれば、もっと安心して子どもを産み育てられるようになるはず。今後も子育てにやさしい社会の実現に向けて、総合的な施策展開を深化させていく。	
14	令和4年9月25日	新町商店街	空き店舗を活用した地域活性化	参加者	・インキュベーション、企業と企業がどう繋がるとか、新しい仕事を作るには、新しいビジネスモデルが必要だと思うので、それは地方から生まれるようなそういう場を作るための仕掛けづくりをやって行きたい。 ・魅力的な就職先があれば、学生は残ってくれる。そうした従業員を抱えて都会に出るような商売を増やすということが必要。 ・福知山という町に来て4年間過ごすことで何かを感じて、それぞれの故郷に帰って行って、何か新しいライフスタイルを学生自らが実践をしていってほしい。 ・学生たちが挑戦できる場をもっと広げていきたいし、今以上に福知山の魅力を外に発信していけるようになりたい。	令和5年度当初予算（新しい商店街づくり総合支援事業「継」）で88,500千円を計上。 商店街の多機能化や多様な人材の集積、及びネットワークの拡大を推進する取組を支援する事業として、「地域課題解決コミュニティ活性化事業」「商店街に関わる人材育成交流促進事業」を令和3年度から継続して実施するもの。
				知事	・定期開催のマーケットをにぎわいづくりだけでなく、起業の場や、地元の学生とのコラボの場とするアイデアが素晴らしい。一方、どんな商売でも同じ形のまま永続するということはなく、新陳代謝と改革が必要。 ・中丹の良さは、ちょっと行ったらすぐに都市的サービスにアクセスできる魅力がある。だけど、住んでいるところは自然が近いし、心があたたかい。その辺りをもっと発信していきたい。	

回	開催日	場所	テーマ	ご意見等		京都府の対応（施策化・検討状況）
15	令和4年9月25日	平野屋商店街	空き店舗を活用した地域活性化	参加者	・空き店舗を借りる時には、なかなかスムーズに行かない部分もあって、やはり使わないよりも使った方がいいので、そういう風に若い方が入りやすくしてほしい。 ・子どもと一緒に出かけるのは、いろいろと心配事が多くて、ハードルが高い。今回の会場のように電子レンジが借りれたり、ベビーカーを押している時に声をかけていただければすごく安心してあたたかさを感じる。 ・Uターンした人が何かを企業しようかなとか、あの会社に入りたいという中小企業・お店を地元でもつくらないといけないと思っています。	令和5年度当初予算（新しい商店街づくり総合支援事業「継」）で88,500千円を計上。 商店街の多機能化や多様な人材の集積、及びネットワークの拡大を推進する取組を支援する事業として、「地域課題解決コミュニティ活性化事業」「商店街に関わる人材育成交流促進事業」を令和3年度から継続して実施するもの。
				知事	・一度「外」を見て来られた方々ならではの視点で街の活性化に取り組んでおられるのを頼もしく感じました。進学や就職で一時離れた若者が戻ってきたくなる、移住したくなるように、またそうした若者と地域をマッチングするのが行政の役割だと思っている。	
16	令和4年11月5日	ヒューリックホール京都	これからの京都のいけばな振興	参加者	・コロナ禍の外出自粛で、住空間に花が一輪あるだけで気持ちが潤うことを感じる人が増えているのをSNSなどで見かける。しかし、なかなか「いけばなを習ってみよう」に結びつかないのが課題。 ・オモトやヒオウギなど、いけばなに欠かせない花材の生産者が減ってきている。花材の生産地と、花をいける環境、見る環境…その間をつなげていくのも華道家の役割だと思う。 ・今回のように、若者の目に触れやすい場所でいけばな展を開くことで、親しみを持ってもらえば。いけばなを通じて、命の大切さや、花の生命力を感じる力を育む機会を作りたい。 ・いけばなは陶芸や漆芸、竹細工など多様な分野とタッグを組んで成り立つ文化。作品を通じて幅広い文化の魅力を伝えていきたい。	【いけばな振興】 　京都における若手華道家の育成及び華道の振興を図ることを目的として、いけばなに触れることのできる「新世代いけばな展」等を開催。※次回の新世代いけばな展は令和6年度開催 〇令和5年度当初予算　文化創造促進事業費「継」12,200千円 【次世代育成】 　学校や地域の文化施設と連携し、小・中学生等に対し、いけばなをはじめとする「質の高い芸術文化」や「地域文化」を活かした文化体験機会を提供し、文化・芸術を次世代に継承するとともに、文化創造や国内外に文化を発信できる人材を育成。 〇令和5年度当初予算　文化を担う人づくり事業費「継」50,000千円
				知事	・いけばなは京都に息づく生活文化の代表格といえるものですが、今後さらに発展を遂げていくために、子どもたちが体験する機会の創出や、花材の生活環境を守ることなども含め、トータルな視点で守っていくことが重要であると感じました。	
17	令和4年11月11日	西陣織会館	西陣織の「過去・現在・未来」について	参加者	・地元の小学校では、西陣織の機が置いてあり、みんなで機織の授業をしていて、西陣織のことはほとんどの子どもが知っている。 ・個人個人、一人一人ではなかなか伝統工芸を発展させるとか持続することが難しいので、CROSS　WEEKのようにみんなの力でこそできることがあると実感した。 ・自分の業界だけでは、解決策が見つからなかったところを、横のつながりを活かして課題を解決することができた。 ・すばらしい職人技を後世に残して行かないといけない。そのためには、この仕事に魅力を感じてもらうことが必要だと思う。	【3産地連携】「継」伝統産業産地再構築事業費補助金　26,672千円 　西陣織・京友禅・丹後織物の3産地及び京都府においてシルクテキスタイル・グローバル推進コンソーシアムを設立し、新たなマーケット開拓に取り組む他、産地の生産体制の再構築を支援。特に、西陣織を織るために必要な織機を構成する部品、機料品の調達が困難になりつつあり、機料品調達連絡協議会を立ち上げ、共同仕入れなど持続可能な産地を目指す。 【魅力発信】「継」京都「新文化産業」強化支援事業費　34,400千円 　産地が主体となって行う新たなものづくりや需要開拓に関する取組を幅広く支援し、魅力の発信や後継者育成を行う。 【伴走支援】「継」伝統産業産地振興拠点創出事業費　105,000千円 　事業者が行う新たなチャレンジに対し、成長・発展を総合的なサポート
				知事	・コロナ禍を通して、産地間の連携や、業界をまたがった連携・つながりができた。こうしたつながりを活かして、これからも伝統産業を下支えしていきたい。	
18	令和4年11月29日	京都ブライトンホテル	子育てにやさしい職場づくり	参加者	・コミュニケーションを大切にしつつ、社内研修を積み重ねてきた。働く仲間と仲間の家族の幸せを社員みんなが考え、多忙な中でも育休は取って当たり前だという環境ができている。 ・子連れ出勤・残業ほぼゼロを実現しつつ、社内に開設したコワーキングスペースがハブとなり、活きた情報が集まる地域に根差した社会を目指している。	府内中小企業の子育て環境整備に向けた取組を「多様な働き方推進事業費補助金」等により支援している。 　また、先進的な取組を行う企業の事例をまとめた冊子の作成や、行動宣言を実践する企業をTV番組やHPへの掲載などで、広く府内企業に取組を周知し、横展開を図っている。
				知事	・子育てにやさしい職場は、全ての人にやさしい職場であり、その結果、ワークライフバランスの実現とともに業績アップにつながっている。その実例を広く周知するなど、多くの企業で取り組みが進むよう政策を進めてまいります。	
19	令和4年12月3日	日図デザイン博物館	障害者芸術のこれから	参加者	・障害のある子たちの社会参加のきっかけになるような場が増えることを願っている。 ・審査員をしていて、逆にパワーをいただいている。何にも縛られない発想の自由さに毎回驚かされる。	継続 令和5年度当初予算（障害者文化・スポーツ振興費（障害者文化芸術振興事業）で35，573千円を計上
				知事	・皆さんの思いがストレートに伝わる力作ぞろいで、私も元気とエネルギーをいただきました。皆さんの活躍の場をより広げていけるように、文化庁とも連携し、引き続き障害者芸術振興に取り組んでまいります。	

回	開催日	場所	テーマ	ご意見等		京都府の対応（施策化・検討状況）
20	令和4年12月10日	普賢寺ふれあいの駅	農・福・観連携による地域活性化	参加者	・農・福・観だけでなく、ものづくりや学校関係、行政など、総合的な連携をとった施策により地域の活動の後押しをお願いしたい。 ・異業種連携により自分の業界以外のことや、これまで知らなかった地元の魅力を再発見することができた。	〔農福観連携〕 京都府では、京都式農福連携事業において、障害者の社会参加促進と多種多世代の共生社会づくりに取り組んでおり、その一環として、新たに農福連携に取り組む事業所、障害者の社会参加や地域課題に積極的に取り組む事業所及び6次産業化に取り組む事業所に対して助成し支援を行っている。今後も、障害者が地域の担い手となり、地域の多様な主体と交流・連携し活躍できる社会の実現を目指し、農福連携の推進を図っていく。 令和5年度当初予算で計上 ・京都式農福連携事業： 4,200万円（継続） 〔総合的な連携〕 京都府では、市町村と連携し、地域交響プロジェクトを実施しており、その一環として、地域社会の諸課題の解決に取り組まれる地域活動を支援するとともに、周囲の住民や他団体の協力を得た活動を継続して実施することができるよう、活動に必要な資金確保や協力者の関係構築等の環境を整えるための機会提供などを行っている。 令和5年度当初予算で計上 ・地域交響プロジェクト交付金：25,000万円（継続）
				知事	農業と福祉、観光が連携することによって、これまで埋もれていた地域資源に新たな価値が生まれているのが素晴らしい。この地域の力を一つのモデルとして育てあげていただけるよう、われわれも引き続き支援してまいります。	